



うん



なん



全国和牛能力共進会 島根県代表選抜会

平成29年 6月定例会

● 6月定例会報告	2
● 主な補正予算、議案の審査と結果	4
● 委員会報告	5
● 一般質問	7
● お知らせ	11
● 議会報告会、編集後記	12

の補正予算を可決

●移住・定住・交流推進支援事業



150万円

炭畜電器製造現場
(吉田町宇山)

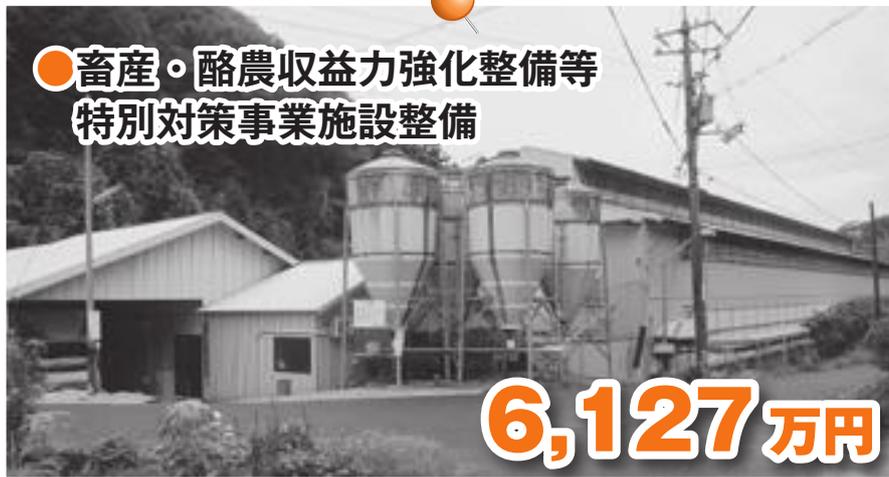
●地域医療教育推進事業



60万円

高校生の医療体験
(市立病院)

●畜産・酪農収益力強化整備等
特別対策事業施設整備



6,127万円

ウインドレス型に改修される鶏舎
(大東町)

平成29年6月定例会は、6月9日から23日まで、15日間の会期で開催しました。平成29年度の一般会計及び特別会計等の補正予算や、家庭的保育事業に関する条例の一部改正など、上程された47件の議案を慎重に審議した結果、全議案を原案のとおり可決しました。一一般質問には13名の議員が登壇し市政を質しました。また、森林環境税（仮称）の早期創設等に関する意見書提出の議員発議があり、賛成多数で可決しました。

一般会計 1億3,590万円

(補正後総額 282億3,390万円)

特別会計等の補正

会計名		補正額	補正後総額
国民健康保険事業特別会計		166万円	54億7,356万円
生活排水処理事業		△744万円	24億8,096万円
水道事業会計	(収益的支出)	1,333万円	13億6,416万円
	(資本的支出)	79万円	8億2,023万円
工業用水道事業会計		12万円	6,556万円

議員発議による意見書(要旨)

森林環境税(仮称)の早期創設と地方がおこなう森林整備対策の
長期的安定的な財源確保を求める意見書

1. 地方がおこなう森林整備の長期的、安定的な財源の確保のため、平成30年度税制改正において「森林環境税(仮称)」を創設すること。
2. 税収は、民有林面積に応じて市町村に分配し、自由度をもった対策が実施できるような制度とすること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成29年6月23日

島根県雲南市議会

提出先：衆議員議長・参議員議長・内閣総理大臣・総務大臣・農林水産大臣

主な補正予算（一般会計）

(単位：千円)

(単位：千円)

内 容	補正額	備考
ふるさとワーキングホリデー事業 (市内企業と連携した大学生のインターンシップの実施)	1,150	新規
移住・定住・交流推進事業補助金 (里山照らし隊(吉田町宇山)による自然エネルギーの活用等による交流人口増への補助金)	1,500	新規
過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業補助金 (「躍動と安らぎの里づくり鍋山」が取り組む生活全体の困りごとの解決に向けた地域づくりへの補助金)	12,644	新規
飲料水確保事業補助金 (水道未普及地域において、居住用飲料井戸を設置する際の補助金)	1,000	
保育所施設整備事業補助金 (社会福祉法人 愛耕福祉会が行う保育所新設に係る基準額見直しに伴う補助金額の増)	27,935	
健康づくり拠点開設準備事業 (加茂 B&G 海洋センターで展開する運動プログラムの構築等)	4,524	新規
農地中間管理機構事業 (事業規模の拡大に伴う増額)	2,000	

内 容	補正額	備考
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設整備補助金 (市内養鶏農家の施設整備に対する補助金)	61,276	新規
森林バイオマスエネルギー事業 (市民参加型収集運搬システム登録者への講習会委託費の増)	1,242	
地域商業等支援事業補助金 (新規創業等に対する補助金2件分の増)	3,312	
鉄の道文化圏推進協議会負担金 (映画「たたら侍」オープンセットを活用した情報発信と周遊促進対策経費の負担金)	1,000	
観光宣伝事業 (映画「たたら侍」オープンセット活用に伴う駐車場整備や会場内の警備費用等)	6,500	
高速道路整備関連事業 (加茂 BS スマートインターチェンジへのアクセス道路の調査・設計等)	60,485	
文化財保護事業 (特別天然記念物コウノトリのヒナに対するエサ代、輸送経費等)	666	

議案の審査と結果

承認	採決結果	採決状況
平成 28 年度雲南市一般会計補正予算(第 6 号)の専決処分	承認	全会一致
平成 28 年度雲南市国民健康保険事業特別会計補正予算(第 5 号)の専決処分	承認	全会一致
平成 28 年度雲南市農業労働災害共済事業特別会計補正予算(第 1 号)の専決処分	承認	全会一致
平成 28 年度雲南市簡易水道事業特別会計補正予算(第 5 号)の専決処分	承認	全会一致
平成 28 年度雲南市生活排水処理事業特別会計補正予算(第 5 号)の専決処分	承認	全会一致
平成 28 年度雲南市土地区画整理事業特別会計補正予算(第 2 号)の専決処分	承認	全会一致
雲南市消防団員等公務災害補償条例の一部改正の専決処分	承認	全会一致
雲南市税条例の一部改正の専決処分	承認	全会一致
雲南市国民健康保険条例の一部改正の専決処分	承認	全会一致

条 例	採決結果	採決状況
雲南市過疎地域自立促進基金条例を廃止する条例	可決	全会一致
雲南市介護保険施設整備基金条例を廃止する条例	可決	全会一致
雲南市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市病院事業等に関する条例の一部改正	可決	全会一致

一般事件	採決結果	採決状況
過疎地域自立促進計画の変更	可決	全会一致
公の施設の指定管理の指定の変更	可決	全会一致
庁舎施設整備事業掛合総合センター・交流センター建設工事(建築主体)請負契約について	可決	全会一致
健康づくり拠点整備事業雲南市加茂 B & G 海洋センター改修工事(建築主体)請負契約について	可決	全会一致
健康づくり拠点整備事業雲南市加茂 B & G 海洋センター改修工事(機械設備)請負契約について	可決	全会一致

平成 29 年度補正予算	採決結果	採決状況
一般会計(第 1 号)	可決	全会一致
国民健康保険事業特別会計(第 1 号)	可決	全会一致
生活排水処理事業特別会計(第 1 号)	可決	全会一致
水道事業会計(第 1 号)	可決	全会一致
工業用水道事業会計(第 1 号)	可決	全会一致
病院事業会計(第 1 号)	可決	全会一致

報 告
議会の委任による専決処分(3 件)
学校給食費に関する権利(債権)の放棄
簡易水道料金に関する権利(債権)の放棄
水道料金に関する権利(債権)の放棄
病院医療費に関する権利(債権)の放棄
平成 28 年度雲南市一般会計繰越明許費繰越計算書
平成 28 年度雲南市水道事業会計予算の繰越
平成 28 年度雲南市病院事業会計予算の繰越

諮 問	採決結果	採決状況
人権擁護委員候補者の推薦につき同意を求めることについて	適任	全会一致
「島根原子力発電所 1 号炉廃止措置計画の認可」に係る意見及び要請につき意見を求めることについて	可決	賛成多数

同 意	採決結果	採決状況
雲南市農業委員会委員の任命につき認定農業者等が委員の過半数を占めることを要しない場合の同意を求めることについて	同意	全会一致
雲南市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて(19 件)	同意	全会一致

請願・陳情	採決結果	採決状況
松江ろう学校に通学する聴覚障がい幼児の通学支援について	採択	全会一致
北朝鮮問題をめぐる国際的緊張の高まりを平和的に解決することを求める請願書	不採択	賛成少数
「共謀罪」と同趣旨の「テロ等組織犯罪準備罪」の拙速な法制定を行わないことを求める意見書提出に関する請願	—	審議不要
森林環境税(仮称)の早期創設の実現について	採択	賛成多数

委員会報告

総務常任委員会

委員長 小林眞一

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された5件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市過疎地域自立促進基金条例を廃止する条例

この条例は、平成22年に設置した特定目的基金の設置条例の一つです。平成28年度に8,076万円余りを取り崩し、地域づくり活動等交付金へ充当したため、基金残高が無くなったことに伴い、同基金を廃止するものです。質疑では、今後、必要があれば再び設置できるか。また、過疎債の総額を市の裁量でハードとソフトに分けられるのかとの問いに、必要な事態が生じた場合は、改めて条例を設置する。ソフトの発行限度額は、標準財政規模や財政

力指数等により毎年決定され、ハードが余ったからといってソフトに使うことは出来ないとの答弁でした。

(主な予算の審査状況)

・ふるさとワーキングホリデー事業115万円は、大学生の人材育成と定住につながる取り組みとして市内企業と連携したインターンシップを実施する事業です。質疑では、参加企業と支出内



地域自主組織による見守り活動

容はとの問いに、本年は、試行期間として吉田ふるさと村の一社である。学生の宿泊費61万円、参加企業への委託料30万円、職員の旅費24万円との答弁でした。

・過疎地域集落ネットワーク圏形成支援事業1,265万円は、躍動と安らぎの里づくり鍋山が、生活全体の困りごとの解決に向けた支えあいの地域づくりに取り組むための補助金です。質疑では自主組織の通常業務に新たな事業が加わるが、体制は出来ているのかとの問いに、地域の負担にならないよう、専門的外部人材を受け入れ事業を進める。予算はその人件費がほとんどであるとの答弁でした。また、国の単年度事業であるが、購入した備品の会計処理が必要ではとの問いに、国と確認を取り事業を進めたとの答弁でした。

・コミュニティ助成事業補助金180万円は、

コミュニティ活動に必要な備品や地域文化への支援等に対して助成を行う事業です。中野の里づく

教育民生常任委員会

委員長 西村雄一郎

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された6件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市病院事業等に関する条例の一部を改正する条例

この条例は介護療養病床(48床)について、医療療養病床へ転換を図ることに伴う条例改正です。これにより、近年増加した民間の介護施設との住み分け、将来的には増収を図るものです。

質疑では、現在の介護療養病床でのショートステイは無くなるのかとの問いに、医療に特化し、医療療養病床への転換後は、ショートステイは民

り委員会が防災備品の整備を行うための予算であるとの説明でした。



温水化に改修されるB&Gプール

間事業所が担うことになるとの答弁でした。

(主な予算審査)

・健康づくり拠点開設準備事業452万円は、加茂B&Gプールを建て替え、健康づくりのための温水プール施設等を開設

する事務員人件費、トレーナー等の研修費、募集中の印刷費等です。

指定管理者の選考基準をどう考えているのかとの問いに、健康づくり拠点施設については、本市のスポーツや文化活動の振興に実績のあるところに指定管理をを考えているとの答弁でした。

運営プログラム作成等の受託者と新施設の指定管理者が仮に同一であれば、業務管理及び指定管理料が適切、効率的に行われるのかとの問いに、その場合は受託者に丸投げするのではなく、市が主体的に取り組み、精査し、透明性を確保したいとの答弁でした。

水泳連盟等、経営のノウハウを持つ者が立案に加わるべきだとの問いに、日本水泳振興会（株）とのパイプを生かし、継続的に相談するとの答弁でした。

・大東図書館施設整備事業について、閉鎖中の自

習施設はとの問いに、大東体育館事務室を予定しているとの答弁でした。また、図書館等がない町へはどう対応していくのかとの問いに、交流センター等への開設を検討するとの答弁でした。

・病院事業について、外来の待ち時間が長くな

産業建設常任委員会

委員長 周藤 正志

（議案の審査）

委員会に付託及び委託された6件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

（条例等の審査状況）

・雲南市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の一部を改正する条例

この条例は、国が新設する農地利用最適化交付金事業に基づく交付金を、現行の基本報酬に、農地利用の最適化に係る実績に応じ、国の定める予算の範囲内で市長が定める

る場合がある。短くならないかとの問いに、医師等の診療体制の確保が一番難しい。事務補助等を付けることやホワイトボード等に診療番号を表示して診療順番がわかるようにすることなどを検討したいとの答弁でした。

額を上乗せ支給するという内容で、新しい農業委員会の発足に併せ改正するものです。

新しく設置される農地利用最適化推進委員の仕事と役割がわからないとの問いに、新しい農業委員会制度では、担い手への農地集積と耕作放棄地の発生防止・解消が必須

事務と定められたことから、担当地域における農地パトロールなど現場活動を農業委員と協力して行う。業務内容の割り振りや進め方については、



農業委員による農地パトロール

2万8,800羽から平成33年度には約4万羽にする計画です。市への支援要望は無かったかの問いに、要望は無かったとの答弁でした。

農業委員会で決めて行くとの答弁でした。また、成果実績に応じた交付金については、国が示す方針に基づき、市における配分方法を要綱等で定め対応するよう指摘しました。

（主な予算の審査状況）

・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業6,128万円は、大東町の養鶏農家が事業主体となつて行うウインドレス鶏舎への改修などへの国の補助金です。これにより飼養規模を現在の

・地域商業等支援事業補助金332万円は、新規創業に対する補助金です。事業内容は何かとの問いに、一つはマルシェリーズの空きスペースを利用して、木次地区在住の要介護支援1と2の方を対象にした、健康体操と特殊カートを使った買い物支援を送迎つきで行う事業への補助と、三刀屋町で予定されているブックカフェへの補助であるとの答弁でした。

・映画たたら侍オープンセット活用事業650万円は、会場内の整備と警備に対するものです。6万人の入場を想定しているとのことだが、映画公開一時中止という経緯もあり、無駄のない効率的、効果的な予算執行を求めました。

一般質問

本人の責任のもとに原稿を掲載しました。質問項目すべてを載せているものではありません。

13名の議員がズバリ市長に問う

特定健康診査の受診状況は



堀江 治之

問 特定健康診査の受診率が低いと聞いているが、その現状は。

答 平成28年度の受診率は、前年度と比較し1.6ポイント増え35.4%となっているが、県と比較しても若干低い状況となっている。

問 国指導による一般会計の地方公会計化の進捗状況と公表の時期は。

答 今年度が初年度であり、開始貸借対照表の作

成や勘定科目の読み替え設定、システム調整が必要である。各会計の決算

が出そろう8月以降からの作成となり、来年3月を目標としたい。

問 ふるさと納税制度に対し、総務省は返礼品の3割ルールの通知を出しているが、市の対応は。

答 返礼品の額は3割以内とし、商品券、家電製品も返礼品としない。また、市内からの納税者に対しては、返礼品を出さないこととする。

問 健康づくり拠点施設の工事が発注されたが、利活用の方針を早く確定すべきと考えるが。

答 9月までのところで固めたいと思っており、最大限の努力をする。

介護職員不足への対応は



細木 照子

問 介護職場の専門職員の定数確保が大変に厳しい。介護度の高い方への介護の難しさ、テンテコ舞の忙しさや夜勤もある。その上、賃金が低い等が考えられる。

答 この原因や実態をきちんと理解し、その解決を国、県へ強く訴えていく必要があると思うが。

問 市内の介護職場の介護職員は、ほとんどの事業所で不足しており、慢性的な状態となっている事業所が多い。原因は議員指摘のとおりである。市としても問題解決に向け取り組んでいきたい。

問 ここ数年間で夜間歩行中に交通事故死された方は夜光反射材の着用が

無かったと言われる。

夜間歩行者の夜光反射材着用は稀であり、もっと抜本的かつ具体的な指導が必要ではないか。

答 交通安全協会でも特に重点項目として夜光反射材の着用が言われている。警察署等と連携しながら普及啓発運動をして着用率を上げたい。

その他の質問
・山林の保護等合計7項目

身近な危機管理の対応が希薄では



矢壁 正弘

問 火災に対する緊急告知、洪水に対する河川の整備等、日常身近で発生する災害に対するの備えが希薄ではないか。

答 常に地道なチェック

体制が必要と改めて痛感した。指摘を真摯に受けとめ対応したい。

問 現在、10の地域自主組織が実施している配食サービスによる見守りは、理にかなった施策である。一層の支援が必要では。

答 配食サービスの更なる充実を図ると同時に、見守り活動について、どのような充実を図っていく必要があるのか検討し、推進していく。

問 中・四国4県を結ぶ広域サイクルロードが設定された。本市の受け入れ体制は整っているのか。

答 安全走行が目的の路面表示や案内看板等は、平成27年度から取り組み今年度完了予定である。

問 住民に健康づくりに対する意識の高揚を促がす、健康マイレージ制度が全国的に広がっている。本市も取り組んでほしい。

答 健康マイレージ制度の有効性について調査し、利用できるものは取り組んでいきたい。

ストレスのない 入札は事前公表だ



佐藤 隆司

問 一般競争入札は、平成16年度から予定価格が事前公表され、平成27年度以降は事後公表とされたが、メリットと効果は。

答 メリットは、落札率の低下傾向化、入札参加者の適正な見積りの推進、談合が行われにくい等がある。2年が経過し、落札率は、ほぼ横ばいで、現時点での効果は認められず時間をかけて検証したい。

問 事後公表のデメリットである不落日物は。

答 平成27年度は12件、平成28年度は19件発生している。

問 事前公表のメリットは、1回の入札でほぼ決定する。事後公表の不落日物の対応は。

の場合の対応は。

答 不落随意契約や指名参加資格の変更、設計変更の対応で事務量増となる。

問 職員の不正防止や事務処理の軽減、発注者と応札者のストレスが少なくメリットが多い事前公表に戻すことが必要だ。

答 国から事後公表の要請がある。適正価格での契約、積算の妥当性、積算能力の向上に資するため、引き続き事後公表とする。

林業の育成策は



中林 孝

問 今後、林業は産業の核となる可能性がある。現状と課題について伺う。

答 利用期を迎えた森林面積が増加している。均

衡のとれた年齢構成に誘導し、集約化と循環型林業を目指す。



問 高性能機械の稼働率が低いのは、路網整備が遅れているからでは。

答 路網整備が進んでいないことが一番の原因。施業の集約、効率的な森林整備を進めていく。

問 林業の活性化には、森林組合との連携が欠かせない。どのように進めるのか。

答 市内4地域で森林整備モデル団地事業を行っている。市が民有林を長

期受託契約し、一括して森林組合に信託するものである。森林組合の施業面積を増加させることで、雇用の場が広がることを期待できる。

問 市道に隣接した山林の枯木が倒れ、通行人に被害を与える危険箇所がある。伐採の補助金を創設する考えはないか。

答 補助金は考えていない。倒木事故の責任は、所有者にあると考える。判例も研究していく。

奨学金支援制度 検討から実施を



原 祐二

問 働き方改革では、誰にでもチャンスのある教育の整備として給付型、無利子型、貸与型の奨学金を創設及び拡充するとしているが、本市独自の

奨学金支援制度の創設についての検討状況は。

答 国の制度への上乗せや、対象とならない若者への支援等について、検討していく必要があると考えている。具体的には、若者チャレンジに向けての基金をスピード感を持って検討する。

問 市民サービスに直結する交流センターなどの指定管理者の選定は、重要である。サービスの維持・向上、効率的な施設運営のため働きやすい職場環境が求められる。選定時には、雇用労働条件の確認のため、専門的な知識を有する社会保険労務士を活用し、労働者の環境改善を図っては。

答 交流センターの施設管理を行う地域自主組織については、臨時・非常勤職員に係る法改正や活動の実態を随時把握し、処遇の改善を検討する。社会保険労務士の活用については、働き方改革の視点で指導を考える。

市民に寄り添う
相談業務を



藤原 政文

問 困りごとをどこに相談をすれば良いのかわからないとの声を謙虚に受けとめ、市民に寄り添う相談業務の取り組みが必要だ。

答 市報等で情報提供をしている。困りごとは、本庁または総合センターに問い合わせいただきたい。

問 永井隆博士顕彰基金は3年後には残高がゼロに、また桜のまちづくり基金は、合併時の半分になった。各々の事業を継続するため、絵本作成や、駐車場料金徴収等、知恵を出し財源確保が必要だ。
答 各々の事業の継続は必要だ。基金造成についても検討する。

問 コウノトリの事故の所見と今後の啓発策は。

答 今回の事故は残念の極みだ。二度とあつてはならない。再発防止のため市報等で啓発する。

問 効率的な農作業に必要不可欠な農作業道整備の声が多い。計画的に進められているか。

答 土地改良事業等を用い計画的に整備を進める。

問 大型農機具導入補助を認定農業者と連携する個人にも適用できないか。
答 連携体制ができれば補助金導入も考えられる。

中活事業推進の
本気度を問う



松林 孝之

問 中活事業は先ず行政が土地や道路、建造物等のハード整備を示すべき。行政内部に統括的な推進

室を設置しては。

答 室は設置せず、人員を強化し建設部と産業観光部が連携して取り組む。



商業集積施設のイメージ図

問 商業集積施設（仮称）さくらマルシェの参画予定者が激減した。要因①家賃の軽減策（ランニングコストの圧縮）②ホテル誘致の実現性③人手不足の解消（地域内人材の雇用）がキーと考えるが、対応策と現状は。
答 ①商工会やまちづくり会社等と整備費、手法を検討し、更に市として

の支援策も検討する。②相手方と協議中。早期決定に向け努力する。また用地交渉の進展も図る。

③地域内人材と出店予定社とのマッチングがキー。意向調査を行う。

問 不転の決意で臨むとされた本事業。改めて市長の決意を問う。

答 中活事業の推進は、ハードとソフト、中心部と周辺部とのリンク等、本市が目指す活力と賑わいのあるまちづくりの大いなる戦略。しっかりと取り組むことを改めて誓う。

草刈りが困難な
自治会への支援を



上代 和美

問 市道の草刈りについては、高齢のため参加できなかつたり、自治会の

構成員が少ないなど困難を抱えているところがある。草刈りをする人手の支援が必要だが、考えは。

答 道路の維持管理を実施するために、現在14名の作業員を雇用している。主に、自治会の方々がめったに通らない道路の維持管理をしていたら

ている。困難な自治会があれば、建設部に相談いただき、協議して、市で雇用の作業員、シルバー人材、または業者で対応していきたい。また、昨年からの愛護作業とは別枠で金額を支払う集落間道路除草事業を創設している。自治会の有志の方などで刈っていたら、自治会間が100メートル以上離れている道路、また自治会内で500メートル以上家屋がない道路に、1キロ当たり3万円補助する。条件としては、両側の路肩を1メートル程度、年2回除草する必要がある。

道徳教育
成績評価の方法は



細田 実

問 小学校は2018年度から、中学校は2019年度から道徳が教科となる。道徳科では文科省の検定に合格した教科書を使い評価も行われる。その評価はどのように行われるのか。

答 学習指導要領の改訂で、特別の教科「道徳」として位置づけられる。評価は他者との比較ではなく個人内評価で数値ではなく文章記述で評価することになっている。

問 かつては修身という国定教科書を使った道徳教育が行われ、天皇制を中心とする国家体制から戦争に向かっていった。それに学校教育が大きく関わったとの反省から道

徳教育は廃止された。子どもたちに特定の思想、国家感を押し付ける道徳教育であってはならないと思うがどうか。

答 憲法には基本的人権の尊重がうたっており、思想信条の自由もうたっている。したがって、教員が一つの考え方、一つの思想、一つの思いというものを子どもに押し付けるということはないだろうと思う。

児童・生徒の
安全確保を



中村 辰眞

問 児童の安全確保に対しては、学校と児童クラブと保護者、三者の連携が必要不可欠と考える。児童クラブへ向かう児童がはぐれ、誰もいない自宅に帰るといふ事例が発

生じた。子どもの安全を第一に考え、安全確保の徹底を望むが見解は。

答 これまでの保護者と児童クラブの連絡の徹底に加え、学校から送り出した児童の確認など、ダブルチェックが行なえる体制を至急講じる。



市立大東図書館

問 大東図書館が改修のために1年以上の休館となっている。学校の長期の休みに図書館を利用していただけの子どもたちの居場所や学習の場が失われる。図書館の代替場所の考えはないか。

答 工事期間中の、図書館代替機能の確保は難しい。長期の休みにおける学習場所については、近隣の公共施設での提供を検討していく。

問 学校のエアコンは、使用を控える事がないように予算の確保が必要だと思ふが。

答 今年度の状況を見ながら、予算不足の場合は、補正予算で対応する。

子育て支援を
どう進めていくか



安井 誉

問 子育て支援の見直しと将来進めて行く点についての考えは。

答 保育所や放課後児童クラブの待機児童の解消を優先し進めている。今後施設面の充実に加えて子育て不安や孤立化に対応

するため、子育て支援センターやファミリサポートセンターなど、親子の交流や子育てを支援する体制の充実に取り組む。職場の環境作りや在宅育児支援など子育ての選択肢が広がる仕組みにも視野を広げて行く。

問 今後の農業施策展開をどう進めていくか。

答 本市の目指すものは小農であり、集落営農や地域営農をしっかりと進め、地域を守り、農業生活を守るための農業を実現出来る様、あらゆる施策を取り込み推進する。

問 森林事業に対するの施策展開をどう進めるか。

答 森林施策は飯石、大原森林組合と連携推進している。(仮称)林地中間管理機構の実現を国に提言している。本市は80%が山林面積であり、事業展開を強力に進める。



環境基本条例を
制定すべきだ



周藤 正志

問 本市には残っていない自然景観がたくさんある。21世紀は環境の世紀でもあり、持続可能と共生がキーワードだ。この地域固有の自然、歴史、社会的条件に沿った環境基本条例を制定し、その中で環境基本計画を位置づけて、市民と共に考え実践していくべきでは。

答 自然と共生する循環型社会を目指す必要がある。計画策定をする上で、検討したい。

問 3・11以降、再生可能エネルギーの普及とエネルギーの分散や地産地消の取り組みが広がっている。どのようなエネルギー政策を進めるのか。

答 再生可能エネルギーの活用を進めると共に、カーボンオフセット、風力発電、マイクロ水力発電、竹などを利用した蓄電池などに取り組む。

問 これまでの市長の答弁を踏まえ、環境基本計画の中に、脱原発イコール原発に依存しない社会を目指すことを明らかにすべきだ。

答 原発に関わる見解や取り組みも盛り込まなくてはならない。



市役所屋上の太陽光パネル

お花見レガッタ

5月14日(日) 尾原ダムさくらおろち湖において、「第6回お花見レガッタ」が開催され、昨年が続いて市議会クルーも参加しました。

レガッタの参加クルーは56チーム。市議会クルーは、初心者を交えてぶっつけ本番のレースに臨みました。運よく一回戦は勝ち上がり、昨年より成績がよかったと皆で喜びあいました。



市議会クルー

当日は、艇庫前を起点・ゴールとする「第5回さくらおろち湖ウォーク大会」も同時に開催され、市内外から訪れた参加者や応援団で大変な賑わいとなりました。

好天に恵まれ、抜けるような青空、湖面を渡る爽やかな風、山脈に広がる新緑と、奥出雲の豊かな自然を満喫した一日でした。

永年の地方自治の発展に貢献した功績により、次の議員が表彰を受けました。

○全国市議会議長会

正副議長一般表彰(正副議長4年以上)

藤原 信宏

議員一般表彰(議員15年以上)

堀江 眞

○中国市議会議長会表彰

議員特別表彰(議員12年以上)

藤原 信宏

山崎 正幸

深田 徳夫

堀江 治之

議員普通表彰(議員8年以上)

西村 雄一郎

周藤 正志

佐藤 隆司

議会報告会

議会活動に対する市民の皆様からの声を直接お聞きし、議会に反映するため「議会報告会」を開催しています。

今回は、5月12日～16日、市内の5会場で開催し93名のご参加がありました。多数のご意見を頂きましたので、その一部を会場別にご紹介します。

【大東会場】

◆当地は、原発から30km圏内にある。大仁道路は狭くてスムーズに避難できるか心配。

◆大東の自動車部品製造会社の閉鎖が発表された。従業員の雇用をどのように守っていくか。

◆閉校となった久野小学校の活用が難しい。教育財産から福祉施設へ変更しようと思っても縦割りで動きが悪い。

【加茂会場】

◆水田耕作の後継者がいない。相談窓口はあるか。中間管理機構の話は初めて聞いた。困っている人も多いため周知してもらいたい。

◆加茂児童クラブは、定員40名に対し実際は80名程度が通っている。狭いので早急に対応してもらいたい。空家の活用など方法はある。

【木次会場】

◆市内に働き口を増やすビジョンは、どのようなものがあるか。造成した企業団地に企業は来るのか。

◆デマンドバスは早く帰りたくても時間が合わない、予約が面倒等、市民バスに戻してほしいとの声がある。

◆尾原ダムができて飯石広域農道利用者が多くなった。冬季、大谷から佐白に抜ける道には凍結防止剤が撒かれず危険だ。

【三刀屋会場】

◆永井隆記念館は、教育の町である三刀屋を象徴する施設であって欲しい。全国、世界的にも通用するような取り組みが必要。

必要。

◆三刀屋川の土手には立派な桜並木があるが、駐車場が不足している。整備して三刀屋の桜を盛り上げてもらいたい。

◆大小さまざまな自主組織があり、業務量にも差がある。特に大きなところの負担が大きい。予算や人員体制は一律ではなく、柔軟に対応してもらいたい。

◆旧飯石郡には、図書館がない。しっかりした図書館が必要だ。

【吉田会場】

◆中心と周辺の格差がある。周辺は地域で頑張つてと言われてもどうにもならない。周辺への助成が必要だ。

◆親水護岸整備は少しずつ進めるのではなく、まとめてしないと効率が悪い。

◆農道の法面をイノシシが掘り、土が側溝に落ちて埋まる。側溝に蓋が必要では。

編集後記

本格的な暑い夏のシーズンが到来しました。熱中症には十分に注意し健康管理に努めましょう。

将棋棋士の藤井聡太四段は、公式戦歴代単独1位の29連勝を打ち立てました。藤井聡太四段の圧倒的な棋力と謙虚な姿勢は、将棋ファンのみならず多くの人の心を動かす、関心を持って熱い視線で見守っています。

本市は、幼児期から高校までの発達段階に応じた独自のキャリア形成プログラム(「夢」発見プログラム)をもとに、関係機関が連携・協働して、質の高い教育へ挑戦しています。社会を生き抜くために必要な子どもたちが主体的に身につけ、若い力が雲南市に夢や希望を与えるために、大人が何を行い何をすべきか真剣に考え謙虚に取り組むことが発展に繋がると考えます。

ご意見

お待ちしております

議会活動、議会広報、議会ホームページについてご意見や感想などお気づきの点をお寄せください。
(回答が必要な場合は連絡先を明記してください)

雲南市議会事務局
電話：(0854) 40-1004
FAX：(0854) 40-1009
MAIL：gikai@city.unnan.shimane.jp

議会広報広聴特別委員会

委員長	矢壁正弘
副委員長	中村辰真
委員	中林孝之
	松林孝之
	原祐二
	白築幸
	周藤俊幸
	山崎正幸